

～果かがわ市～ 引田まち歩きマップ



響田(ほんた)八幡宮
引田の氏神で水の大祭が10月の第2日曜日に開催されます。真興退治の際の勇壮な「袋け返」は有名です。



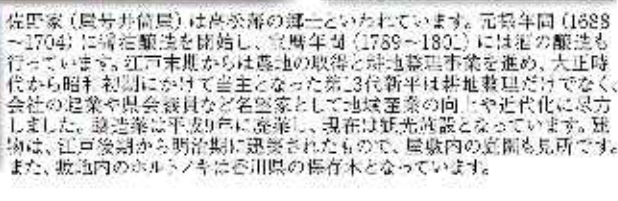
かめびし屋
宝暦3(1753)年創業の老舗醤油屋。伝統製法「むしあじ」製法と約200年以上の歳で長期熟成された醤油は、食味の風味と香りが特徴です。かめびし醤油の名前は職史が長く、氏神のある龜山の「かめ」と亀(むしあ)から取ったといわれています。



東かがわ手袋ギャラリー
東かがわ市は全国シェア93%を誇る手袋の産地です。昔、手袋工場として知られていた霞で昭和のハイファッションや道具を展示、手袋の歴史や昔小物作りもできます。



讃州井高屋敷田



佐田家(屋号:井高屋)は高松藩の御一といわれています。元禄年間(1688~1704)に醤油醸造を開始し、享保年間(1789~1801)には酒の醸造も行っています。江戸末期からは露地の取得と地味醤油事業を進め、大正時代から昭和初期にかけて当主となった第13代新平は新地敷田だけでなく、会社の起業や県会議員など名望家として地域振興の向上や近代化に尽力しました。醸造業は平成29年に廃業し、現在は観光施設となっています。建物は、江戸後期から明治期に建築されたもので、屋敷内の空間も見所です。また、敷地内のホルトンキを古川県の保存木となっています。



円立院
引田では唯一の臨済宗の寺院です。弘安年間(1278~86)に三浦重光から赤山良山に始まった三浦一寺神を勧請するほか、流石は神楽ありです。



松村家
江戸時代中期から引田を名の租において多岐屋の屋号で自の御寄を営んでいた商家です。建物は江戸時代末期の建築です。



泉家
従商地の販売を本業とするかたから、租、たばこの小売を行う商家です。建物は江戸時代末期の建築です。



旧松村医院
昭和初期に建てられた建物。表の建物は昭和、裏の建物は明治の築造に生かされています。その後、病院として使われていました。



岩屋邸
江戸時代から続いた商家で「力の茶」という半丁の清酒を製造販売していました。



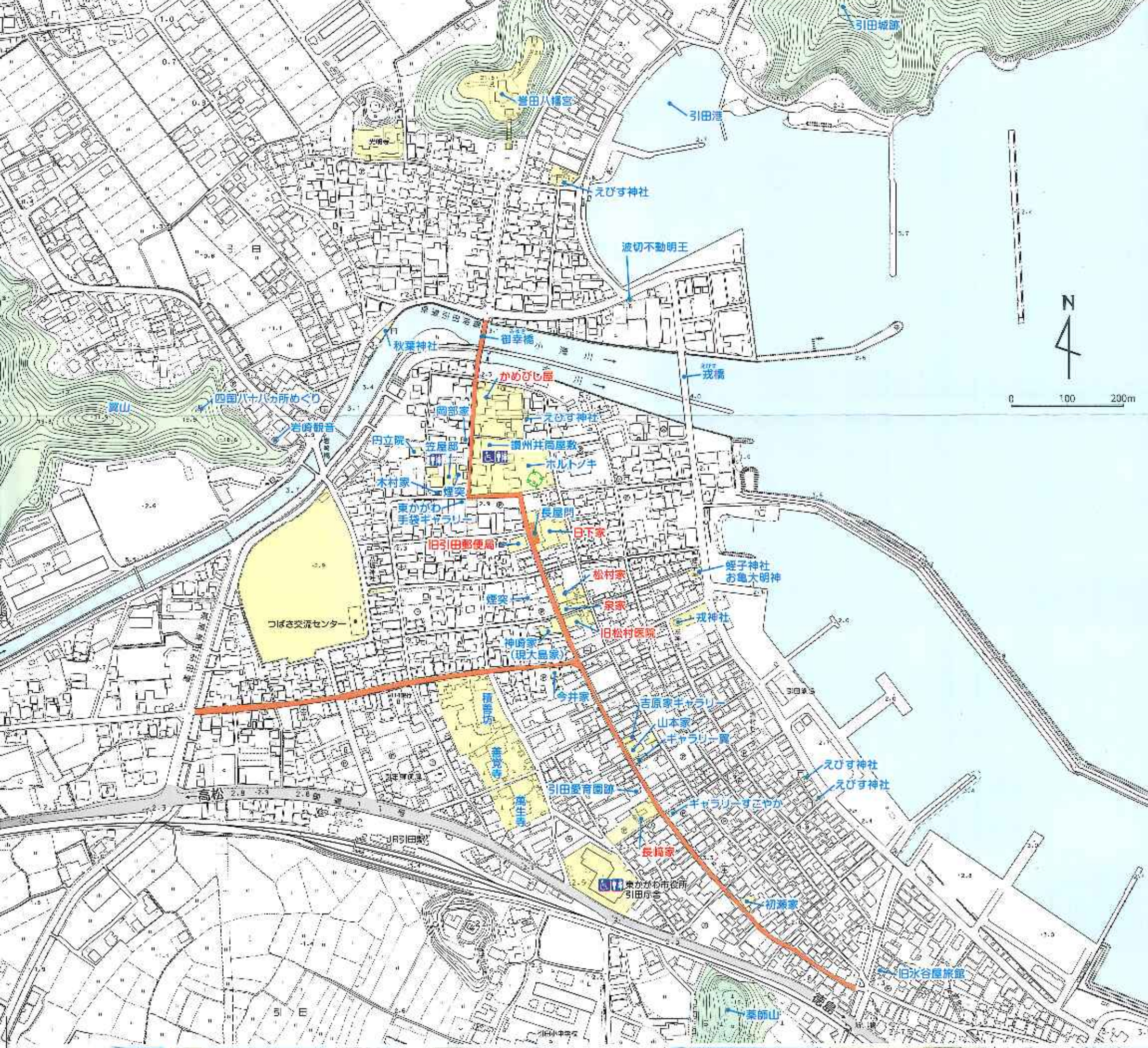
日下家
江戸時代には代々引田村の白屋、大正の大正家を建ててきた家です。屋敷には風情ある長門門、母屋が残っています。



旧引田郵便局
昭和7(1932)年に日下家より贈られた建物で、昭和52年まで使用していました。



木村家
江戸時代から続く商家の家。建物は井高屋並で醤油醸造を営んでいた岡宮家(屋号花屋)から移築したものと伝えられています。



積善坊(しゃくぜんほう)
真言宗寺院で行事用と伝えられています。引田城築城の生草製正や高松藩初代藩主松平頼重が堂宇を修繕・新築しました。瀬戸内海願きんぐりの寺です。



香覚寺
浄土宗寺院で閉塞は不詳ですが、元は四隣の小海にあってと伝えられています。寺の門は、引田城の門を移築したと伝わっています。



萬生寺(まんじょうじ)
永享年間(1504~21)に引田新地取回宮氏の菩提寺として建立されたといわれています。戦後、「アキの女王」として一風靡した堂舎シズ子さんのゆかりの寺です。



神岡家(屋号:米屋)(現大島家)
江戸初期から醤油醸造を専業で財をたか、引田村一の豪商でした。



山本家
明治37(1904)年に醤油醸造を始めた醸造元です。建物は明治時代の建築です。

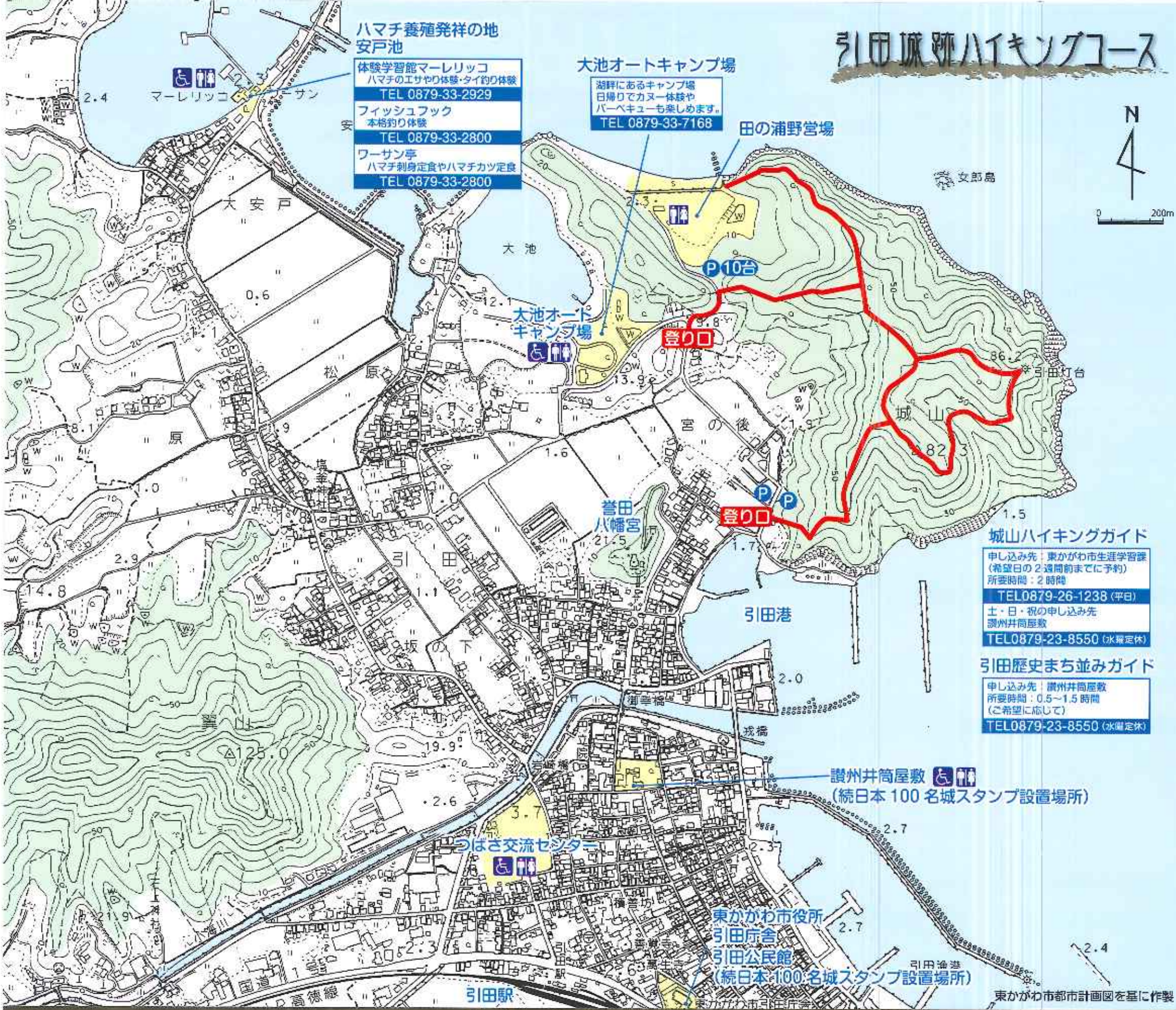


引田愛育園
昭和2(1927)年に岡部アキがこの地で香川県で初めての盲聾児施設を開設しました。平成31年3月閉園。写真は昭和初期の園舎。



長岡家
江戸時代から醤油醸造を営み、明治11(1886)年から醤油醸造を営んでいました。当主昌島の真大総長河原繁先生歴々の場所です。

引田城跡ハイキングコース



ハマチ養殖発祥の地 安戸池
 体験学習館マーレリッコ
 ハマチのエサやり体験・タイ釣り体験
 TEL 0879-33-2929
 フィッシュフック
 本格釣り体験
 TEL 0879-33-2800
 ワーサン亭
 ハマチ刺身定食やハマチカツ定食
 TEL 0879-33-2800

大池オートキャンプ場
 湖畔にあるキャンプ場
 日掃りでカヌー体験や
 パーベキューも楽しめます。
 TEL 0879-33-7168

城山ハイキングガイド
 申し込み先：東かがわ市生涯学習課
 (希望日の2週間前までに予約)
 所要時間：2時間
 TEL0879-26-1238 (平日)
 土・日・祝の申し込み先
 讃州井筒屋敷
 TEL0879-23-8550 (水曜定休)

引田歴史まち並みガイド
 申し込み先：讃州井筒屋敷
 所要時間：0.5～1.5時間
 (ご希望に応じて)
 TEL0879-23-8550 (水曜定休)

讃州井筒屋敷 (続日本100名城スタンプ設置場所)

東かがわ市役所 引田庁舎
 引田公民館 (続日本100名城スタンプ設置場所)

～まちの特徴など～

つし二階と虫籠窓(むしこまど)
 つし二階は、二階の天井が通気より低い造りのことです。虫籠窓とは町家のつし二階に見られる窓です。その名の通り、形が虫籠(むしかご)に似ていることからつけられました。虫籠窓の形で、その町家が造られたおおよその時代が分かることがあります。

引田城跡(城山) 国史跡 続日本100名城

戦国時代には、阿波三好氏や土佐長宗我部氏との攻防の舞台となりました。戦国時代の終わりごろの天正15年(1587)に、讃岐国を治めることとなった生駒氏は讃岐国支配の拠点とする高松城と並行して、東讃地方の支城として引田城を利用していました。引田城跡には、生駒氏が築いた自然石を積んだ野面積みの石垣が残っているほか、建物の礎石やたくさんの瓦がみつかります。ガイドさんとハイキングもできます(予約制)。

海の見える路地
 まち並みは、菅田八幡宮を北端に北西から南東に約1kmに渡っています。メインストリートには商家が並び「オカ」と呼ばれ、それに平行した海側の通りは漁師町で「ハマ」と呼ばれていました。そのメインストリートから直角に海に向かって下る幾筋もの細い路地があります。家々の板壁に挟まれた一人がやっと通る道、その奥に瀬戸の小さな海が光っています。漁家と町家を結ぶ生活の匂いする道です。

風の港と引田のまち並み
 瀬戸内海を運送する船の要港として栄えてきた引田。城山のおもこの湾は風よけの長堤(風待ち港)となっていました。ここで船はよい風が来るのを待ち、その間、船人は引田のまちで滞在していました。そのため、引田は米、商店、旅館などが100軒程並び、賑わいあるまちとなりました。各地からの船が出入りしているため、製塩にも恵まれ、醤油や酒の醸造が盛んとなりました。

煙突
 酒醸造の家があり、醸造のときに使われていた煙突が2カ所に残っています。煙突はレンガ造りで地面に直接設置されています。景観のアクセントになっています。

長屋門
 長屋門は、客人のお付の人が寝泊まりをしたり、使用人の住居・納屋・作業所などに使われました。日下家の長屋門には馬つなぎの金具が残っています。

入母屋造り 本瓦葺き漆喰壁
 本町通りに面する昔ながらの商家は、入母屋造り本瓦葺きの家が多く、裕福であったことがうかがえます。漆喰壁の家が多いが、炭を混ぜた漆喰の家もあります。

引田ひなまつり
 2月下旬から3月3日までの5日間、豪華な飾りつけの雛人形を、引田のまち並み一帯に展示します。3月2日の夜には、町並みを行灯(あんどん)でライトアップする「宵雛まつり」が催されます。